

深海巡航探査機「うらしま」海域試験の成果
～自律型無人機の世界最深記録及び無線画像伝送の伝達距離を更新～

海洋科学技術センター（理事長 平野拓也）は、平成13年8月3日に奄美大島東沖合で実施した深海巡航探査機「うらしま」の実海域試験において、新世代の自律型無人探査機として初めて、水深3,000mを超える3,518mの潜航試験に成功しました。また、この深度から水中TVカメラのカラー映像を超音波で水上の支援母船「よこすか」に伝送することにも成功しました。

高性能のコンピュータ、ハイテクを駆使した航法装置と動力源、観測装置を搭載した新世代の自律型無人探査機は、欧米の先進諸国で開発が進んでおり、後発の我が国は開発が遅れていたが、従来の記録であった潜航深度3,000mを超えた今回の試験の成功で、先進諸国に追いつき一歩前に出ることができました。

今後も「うらしま」は、実海域試験を続け、年内に航続距離100kmの自律連続航走試験を実施した後、来年には、陸上の実験場で性能試験中の燃料電池を搭載する予定です。また、この「うらしま」を基礎に、さらに大深度、長距離航走が出来る深海巡航探査機の開発を計画しています。

[図1](#) : 「うらしま」の海域試験風景。

潜航試験後に支援母船に揚収される風景

[図2](#) : 潜航中の「うらしま」から伝送されたカラー映像。

奄美大島東沖の名瀬海盆の水深3518mの海底から支援母船に超音波伝送で送られてきた静止画。

[資料1](#) : 「うらしま」の一般配置図

[資料2](#) : 「うらしま」の海域試験構想

問い合わせ先 :

海洋科学技術センター

海洋技術研究部 青木、月岡、百留

電話0468(67)5568

総務部普及・広報課 志村

電話0468(67)3806



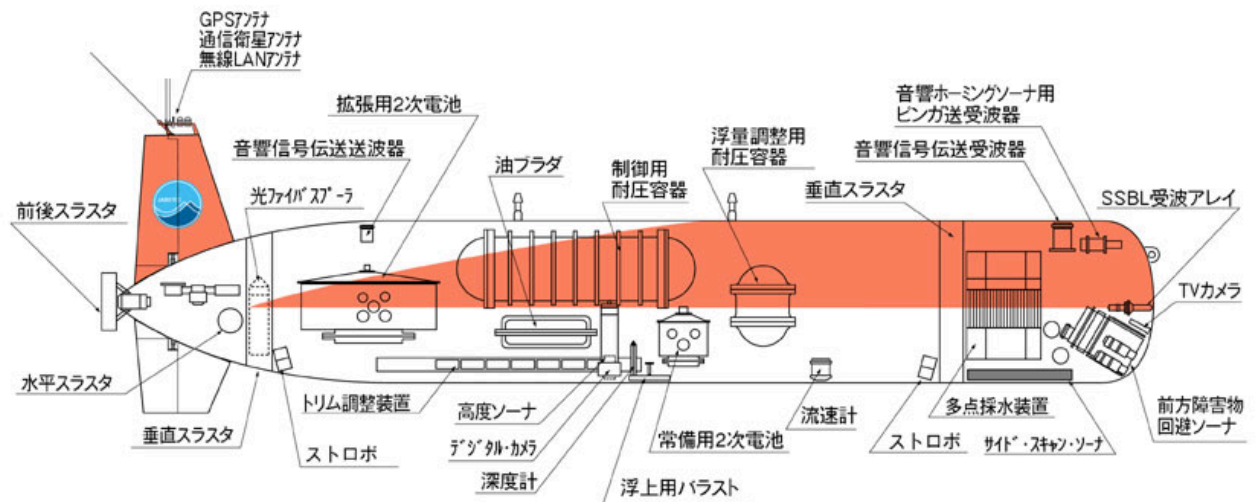
図1 : 「うらしま」の海域試験風景



図2：潜航中の「うらしま」から伝送されたカラー映像

深海巡航探査機 「うらしま」

Deep Sea Cruising AUV " URASHIMA "



深海巡航探査機「うらしま」の海域試験構想

